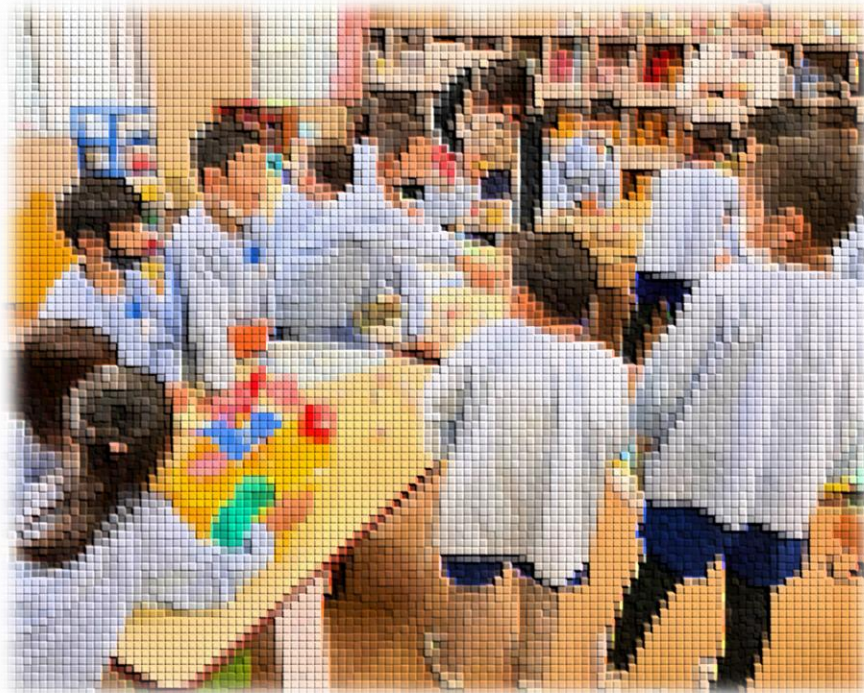


建昌幼稚園ブロック
第3回幼保小連携研修会

保育参観3・4・5歳児合同
「お店屋さんごっこ」



活動の価値(資質・能力の育成の観点から)

知識及び技能の基礎

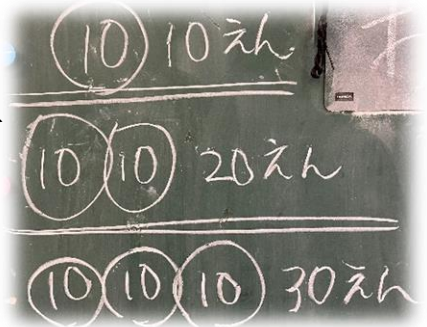
- ・数字、お金との関わり・気づき



10円のみ準備していたことも保育者の意図を感じました。

どのお金を何枚使えばいいかな？

事前の支援もなされていることが分かりました。

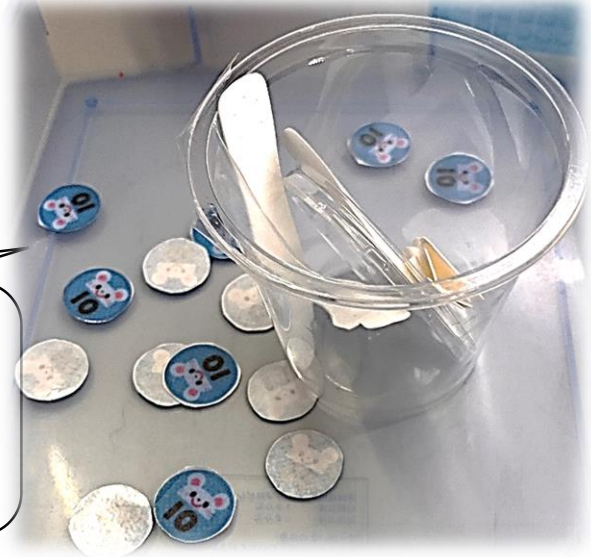


(10) 10円

(10) (10) 20円

(10) (10) (10) 30円

「20円です。」
「10円が2枚だよ。」



活動の価値(資質・能力の育成の観点から)

知識及び技能の基礎

- ・日常生活に必要な言葉の理解

ひらがな習得への入口



数字の習得への入口



お店屋さんごっこをするときの言葉のやり取りも、言葉の理解につながる

活動の価値(資質・能力の育成の観点から)

知識及び技能の基礎

・身体感覚の育成

薄いものをつかむ動き
指先の感覚



・芸術表現のための基礎的な技能の獲得

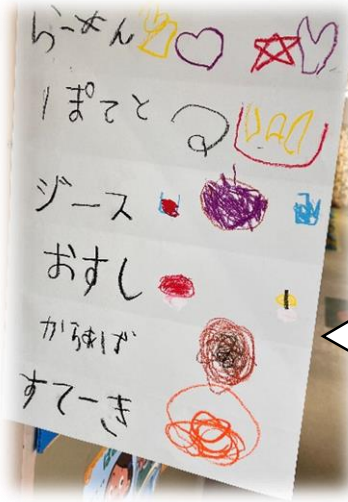


切る、折る、付ける、描く...様々な技能を使います。
子どもが自分の力で作ったものは、主体的な活動を促す上で、大変重要な役割を果たしています。

活動の価値(資質・能力の育成の観点から)

思考力、判断力、表現力等の基礎

・試行錯誤、工夫



よりよいものをつくる過程や、楽しい活動にするための試行錯誤、工夫、アイデア...



お店屋さんごっこの中での会話
「いらっしやい、いらっしやい！」
「どれにしますか？」
「〇円になります」
「ありがとうございました。」

・言葉による表現、伝え合い

活動の価値（資質・能力の育成の観点から）

学びに向かう力、人間性等

- ・思いやり、自信、相手の気持ちの受容、好奇心、折り合い話合い、目的の共有、協力、色・形・音等の美しさや面白さに対する感覚 など



今日の活動だけでなく、今日にいたるまでの活動の中の様々なところに、学びに向かう力人間性等の要素が含まれている。

活動の価値(その他の観点から)

保育者の支援

- ・子どもの気持ちに寄り添う、活動をサポートする、見守る など



子どもの「主体的な活動」には、安心感がベースにあることが重要です。

その安心感は、保育者の受容的な対応や温かいまなざし、サポートなどによって生まれます。

子ども同士で問題が解決しないときは、保育者が間に入ることも必要な場合があります。

(お金が支払われていないと困っている子どもへの対応の様子)

活動の価値（その他の観点から）

保育者の支援

- ・子どもの気持ちに寄り添う、活動をサポートする、見守る など



園内放送を使って、時計を意識した活動ができるように促していました。
このように、かげで活動を支える保育者がいることも、子どもが生き生きと活動するために必要です。

活動の価値(その他の観点から)

特別な配慮を必要とする子どもへの対応

・マンツーマンで



子どもの実態によっては、このようにべったり張り付きで支援をしなければならない場合もあります。

状況に応じて、園内で共通理解が図られていることがうかがえます。

状況によっては、年長さんと配慮が必要な子どものペアで活動させるような対応もあります。

年長さんにとっても学びの場です。



活動の価値(その他の観点から)

活動を「振り返る」←小中学校でも大事にしている学習過程です



「いくら売れたかな? みんなでお金を数えてみよう。」
→「どれくらい売れたのかな?」
→「たくさん売れた! うれしいな!」
→「次は、もっと売りたいな。」

「どんなことが楽しかったかな?」
「〇〇さんは、お祭りみたいって言ってたよ。みんなもそう思った?」



写真を使った振り返りをする場面も見られました。

これまでの活動を思い出したり、次の活動への見通しをもったりするために、とても効果的です。

年長児クラスでは、準備から今日までのことを「かっこよかったよ」「もうすぐ一年生になるんだとうれしくなったよ」と保育者の価値づけも見られました。



